

2019年度

学校運営協議会と地域学校協働本部  
の設置・拡充に向けた調査研究事業

# 報告書

「C○C○L○（こころ）の教育」の推進  
～地域との連携の効果的な仕組み、在り方に係る研究～



令和2年3月  
玉野市立  
玉野商工高等学校

「学校運営協議会と地域学校協働本部の設置・拡充に向けた調査研究」事業

○ 目 次

I	研究概要	1
1.	学校の概要	
	(1) 所在地	
	(2) 設置学科及び学級数	
	(3) 生徒数	
	(4) 校訓	
	(5) 沿革	
	(6) 新しい学校づくりの取組	
2.	研究の概要	
	(1) 研究主題	
	(2) 実践研究のねらい	
3.	研究の経過及び内容（概要）	
II	具体的な研究内容	5
1.	推進体制	
	(1) 推進体制の構築	
	(2) WGの活用	
2.	評価の「見える化」と実践の充実	
	(1) 生徒の成長に関する評価の「見える化」	
	(2) 従来の活動の拡充	
	(3) 新たな活動の創出「生徒と地域が共に創り上げる活動」	
III	研究の成果と課題	12
1.	「C o C o L o（こころ）の教育」に掲げる育成したい九つの資質・能力をバランス良く伸ばすことについて	
	(1) ルーブリック評価の分析	
	(2) G R O W U Pシート評価の分析	
	(3) 学校運営協議会や研究推進協議会での地域からの意見	
	(4) 課題と展望	
2.	コミュニティ・スクール等の仕組みを活かした学校と地域社会の持続可能な連携・協働体制のモデル構築について	
	(1) 学校評議員会から学校運営協議会への移行の促進	
	(2) WGを通じた地域学校協働活動への参加促進（学校運営協議会を熟議の場に）	
	(3) 学校運営協議会等への生徒の参加	
	(4) 課題と展望	

※ 資料

- ・ C o C o L o（こころ）の教育（イメージ図）
- ・ ルーブリック表
- ・ 令和元年度学校グランドデザイン
- ・ G R O W U Pシート
- ・ 学校運営協議会および研究推進協議会についての意識調査
- ・ 学校運営協議会、開催までの経緯

# I 研究概要



## 1. 学校の概要

### (1) 所在地

〒706-0012

岡山県玉野市玉6-1-1

電話 0863-31-5341 FAX 0863-31-5342

アクセス：JR宇野線、宇野駅よりバス約5分、商工高校前下車

### (2) 設置学科及び学級数

機械科 2学級（2年1、1年1）

ビジネス情報科 10学級（3年4、2年3、1年3）

### (3) 生徒数

全校 439名（3年152名、2年135名、1年152名）

### (4) 校訓

3P精神

- ・誇り (Pride)・・・自信と責任、自主性、積極性
- ・ゆとり (Placidity)・・・友情と創意、社会性、協調性
- ・粘り (Perseverance)・・・忍耐と努力、持続性、強じん性

### (5) 沿革

本校は、昭和32年に岡山県で初めての市立商業高等学校、岡山県玉野市立商業高等学校(全日制)として設立された。昭和40年に玉野市立玉野商業高等学校に改称され、「地域に愛され、地域に根ざし、地域に貢献する学校」として歩んできた。平成29年には商業高等学校として60周年を迎えたが、平成30年度から機械科を設置し、玉野市立玉野商工高等学校に改名、「ものづくりのまち玉野」を商工業両面から活気づける商工教育高等学校として新たなスタートを切った。地域と連携して学習できる環境を活かし、地域に貢献し、活躍できる「人財」教育を目指している。

### (6) 新しい学校づくりの取組

平成30年度は、新しい学校をつくるというコンセプトのもと、全教職員で「10年後の玉野商工高校の生徒像」「生徒にどんな力をつけて卒業させたいか」を考え、中学校教員、企業関係者、保護者等の意見も集約し、育成したい九つの資質・能力を完成させた。そして、これらの資質・能力を伸ばす教育を「C o C o L o (こころ) の教育」と名付けた(資料参照)。

#### 【育成したい九つの資質・能力】

「人間力 (Communication: 思考の伝達)」

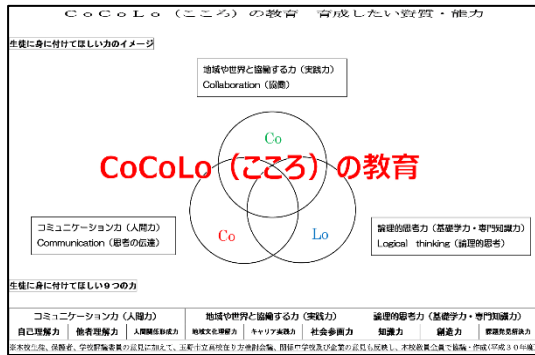
①自己理解力 ②他者理解力 ③人間関係形成力

「実践力 (Collaboration: 協働)」

④地域文化理解力 ⑤キャリア実践力 ⑥社会参画力

「基礎学力・専門知識力 (Logical thinking: 論理的思考)」

⑦知識力 ⑧創造力 ⑨課題発見解決力

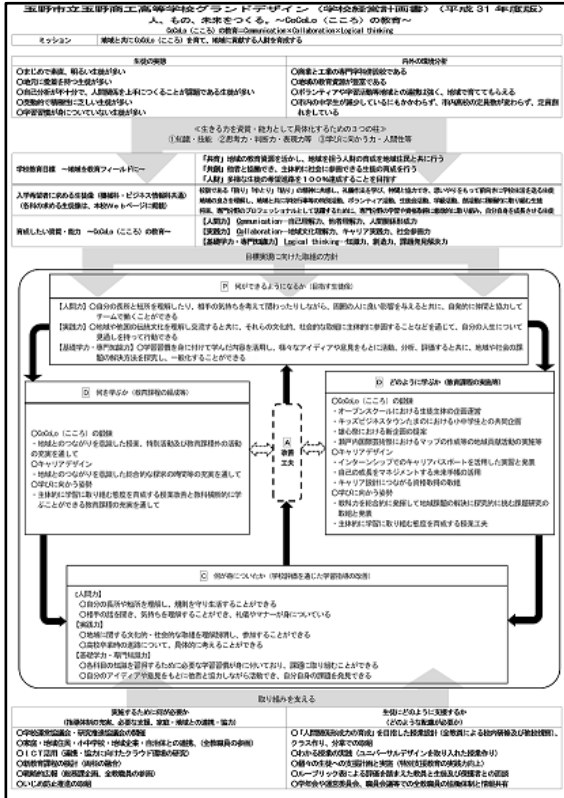


「CoCoLo (ココロ) の教育 (イメージ図)」

CoCeLo (ココロ) の教育 育成したい資質・能力 ルーブリック

Communication (資質の基盤)		Collaboration (協働)		Career (キャリア)		Logical thinking (論理的思考)	
資質の基盤	育成したい資質・能力	協働	協働	キャリア実践	キャリア実践	論理的思考	論理的思考
コミュニケーション力	「人との関係性を築き、協働する力」	「地域や世界と協働する力」	「地域や世界と協働する力」	「キャリア実践力」	「キャリア実践力」	「論理的思考力」	「論理的思考力」
自己理解力	「自己理解力」	「自己理解力」	「自己理解力」	「自己理解力」	「自己理解力」	「自己理解力」	「自己理解力」
読解力	「読解力」	「読解力」	「読解力」	「読解力」	「読解力」	「読解力」	「読解力」
人間関係形成力	「人間関係形成力」	「人間関係形成力」	「人間関係形成力」	「人間関係形成力」	「人間関係形成力」	「人間関係形成力」	「人間関係形成力」
異文化理解力	「異文化理解力」	「異文化理解力」	「異文化理解力」	「異文化理解力」	「異文化理解力」	「異文化理解力」	「異文化理解力」
キャリア実践力	「キャリア実践力」	「キャリア実践力」	「キャリア実践力」	「キャリア実践力」	「キャリア実践力」	「キャリア実践力」	「キャリア実践力」
社会参画力	「社会参画力」	「社会参画力」	「社会参画力」	「社会参画力」	「社会参画力」	「社会参画力」	「社会参画力」
知識力	「知識力」	「知識力」	「知識力」	「知識力」	「知識力」	「知識力」	「知識力」
読解力	「読解力」	「読解力」	「読解力」	「読解力」	「読解力」	「読解力」	「読解力」
職業実践力	「職業実践力」	「職業実践力」	「職業実践力」	「職業実践力」	「職業実践力」	「職業実践力」	「職業実践力」

「ルーブリック」



「学校グランドデザイン」

## 2. 研究の概要

### (1) 研究主題

「CoCoLo (ココロ) の教育」の推進

～地域との連携の効果的な仕組み、在り方に係る研究～

### (2) 実践研究のねらい

「ものづくりのまち玉野」を商工業両面から活気づける商工教育高等学校としての役割を果たし、育成したい資質・能力を伸ばす「CoCoLo (ココロ) の教育」を推進するため、本校は、令和元年度、地域を教育フィールドとし、「地域と共にCoCoLo (ココロ) を育て、地域に貢献する人財を育成する」ことを学校のミッションに掲げ、学校運営協議会制度 (以下「コミュニティ・スクール」という。)を導入した。

コミュニティ・スクールの導入により、次の二点からの効果を期待した。

- ・取組の方向性に基づく教育実践の円滑化
- ・取組の方向性に係る地域との共有と熟成

以上のことを踏まえ、次のようなねらいのもとで本実践研究に取り組むことにした。

その後、生徒の成長や変容を「見える化」するために、生徒、保護者、教職員に現状を振り返るアンケートを行い、ルーブリックを作成した (資料参照)。ルーブリックのレベル3を卒業までに全生徒が身に付けることとした。そしてレベル5を目指す生徒像として設定し、本校への入学希望者に求める生徒像もルーブリックを踏まえて作成した。

また、保護者等にアンケートを行い、次年度最重点で伸ばす資質・能力を「人間関係形成力」と設定した。これらを踏まえ、教育目標として「共育」「共創」「人財の育成」を掲げ、「CoCoLo (ココロ) の教育」を進めるための学校グランドデザインを作成した (資料参照)。

実践的取組として、

- ・地域貢献活動に積極的に参加し、高校生ならではの企画提案を行う等、地域活性化の一翼を担う活動を行う。
- ・隣接する小、中、高が一体となって地域に密着した系統的なキャリア教育の実践、地域住民等とともに行うフィールドワーク学習、生徒が地域や学校で活躍し輝ける場づくり等の実践的な取組を実施する。

これらの取組を通じて、

- ◆「C o C o L o（こころ）の教育」に掲げる育成したい九つの資質・能力をバランス良く伸ばすことを目指す。
- ◆高等学校でのコミュニティ・スクール等の仕組みを活かした学校と地域社会の持続可能な連携・協働体制のモデル構築を図る。

### 3. 研究の経過及び内容（概要）

期 日	内 容（概要）
7月 2日	研究推進協議会委員による機械科授業視察（株式会社宮原製作所） 第1回学校運営協議会及び研究推進協議会 ○学校運営協議会 ・学校運営方針の承認 ・学校の取組に対する意見交換 ○研究推進協議会 ・令和4年度以降の学校運営方針の構想に係る説明 ・各ワーキンググループ（以下「WG」という。）での意見交換
8月26日	WG委員会（実施可能な取組を短期・中期・長期的視点で協議） ○WG1（企業連携）（第1回） ・バス停のベンチ設置についての検討 ・デュアルシステムの導入やコンソーシアムの構築の検討等 ○WG3（ボランティア活動連携）（第1回） ・循環型、課題解決型ボランティアの必要性の共通理解 ・瀬戸内国際芸術祭での地元特産品販売や古民家の改装企画の検討等
8月29日	○WG2（小中学校との連携）（第1回） ・異世代間交流の必要性についての共通理解 ・合同挨拶運動、スマホ学習会の企画の検討等
9月17日	研究推進協議会委員によるビジネス情報科授業視察
10月15日	県外先進校視察 ・名古屋市立名古屋商業高等学校（協力企業確保と持続的な地域連携の在り方）
16日	・長野県立飯田O I D E長姫高等学校（組織的な地域連携の在り方）
11月 5日	研究推進協議会委員による機械科授業視察（株式会社三井E & Sホールディングス）
11月14日	第2回学校運営協議会及び研究推進協議会 ○学校運営協議会 ・学校評価書中間評価の実施 ・県外学校視察報告

	<ul style="list-style-type: none"> <li>○研究推進協議会 <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒による地域と連携した活動報告</li> <li>・各WGでの意見交換</li> </ul> </li> </ul>
11月18日	<ul style="list-style-type: none"> <li>WG委員会 <ul style="list-style-type: none"> <li>○WG3（ボランティア活動連携）（第2回） <ul style="list-style-type: none"> <li>・ビジネス情報科の授業（「ビジネス経済応用」）への参加</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>
12月25日 1月14日 1月27日	<ul style="list-style-type: none"> <li>WG委員会（次年度の実施可能な取組を協議） <ul style="list-style-type: none"> <li>○WG2（小中学校との連携）（第2回） <ul style="list-style-type: none"> <li>・玉野市立玉中学校との合同スマホ学習の企画</li> <li>・小中学校に向けての未来手帳活用出前講座の企画</li> </ul> </li> <li>○WG3（ボランティア活動連携）（第3回） <ul style="list-style-type: none"> <li>・「キッズビジネスタウンたまの」のリニューアル化</li> <li>・築港商店街と連携したイベントの実施</li> </ul> </li> <li>○WG1（企業連携）（第2回） <ul style="list-style-type: none"> <li>・ビジネス情報科のデュアルシステム化の検討</li> <li>・「課題研究」の深化についての協議</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>
2月17日	<ul style="list-style-type: none"> <li>第3回学校運営協議会及び研究推進協議会 <ul style="list-style-type: none"> <li>○研究推進協議会 <ul style="list-style-type: none"> <li>・各WGでの意見交換、情報共有</li> <li>・一年間の振り返り検証、協議</li> </ul> </li> <li>○学校運営協議会 <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校評価書最終評価の実施</li> <li>・令和2年度学校グランドデザインの提示、承認</li> <li>・令和4年度に向けた教育課程案の提示、承認</li> <li>・令和2年度学校行事及び組織編成の提示、承認</li> <li>・職員の任用に関する意見具申の確認</li> <li>・規約の改訂の提示、承認</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>
3月3日	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究成果発表会 <ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒発表 <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度実践事例の紹介等</li> </ul> </li> <li>○研究推進協議会委員発表 <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究の概要</li> <li>・研究の経過と内容</li> <li>・研究の成果と課題</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>

## II 具体的な研究内容

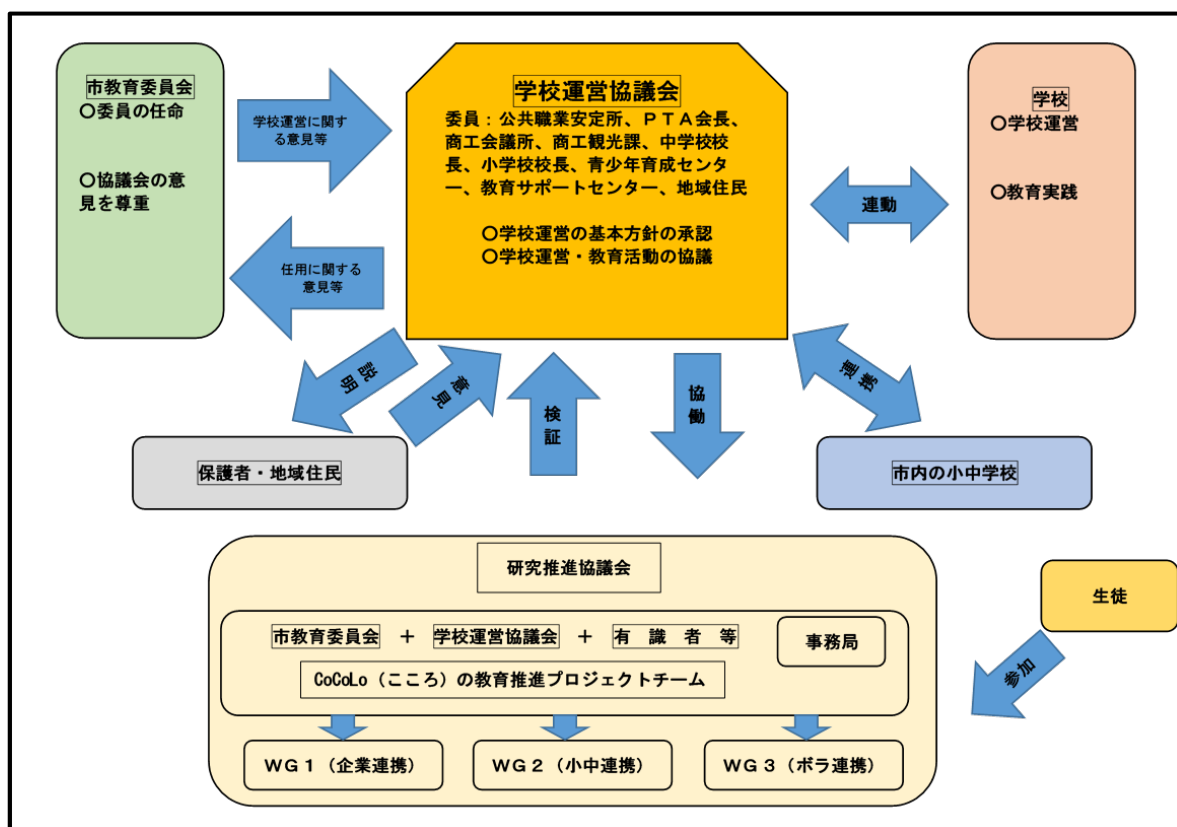
### 1. 推進体制

#### (1) 推進体制の構築

本実践研究のねらいに即して、学校運営協議会は、企業連携の観点から玉野公共職業安定所、玉野商工会議所、玉野市商工観光課、小中高の連携の観点から玉野市の小学校や中学校の校長、地域をフィールドとしたボランティア活動等を念頭に地域住民等を選定した。

また、本実践研究の中心的推進組織として研究推進協議会を設置し、学校運営協議会の取組を検証することにした。委員としては、学校運営協議会の委員に加えて、適切な指導助言を行う知見を有する玉野市教育委員会学校教育課職員や有識者等（大学教授、地域の商工業関係者等）を委嘱した。

特徴としては、両協議会を一体として運用するとともに、従来本校が行ってきた取組に対する意見や助言にとどまらず、共に活動を創出し、実践を行うことを意識した体制としたことである。そのために、研究推進協議会のもとに、複数のWGを設置し、すべての委員がいずれかのWGに所属して、WGごとに活動を行うことにした。



持続可能な連携・協働体制のモデル (構想図)

学校運営協議会委員

No.	所属団体・役職等	WG
1	玉野公共職業安定所所長	WG 1
2	玉野商工会議所総務課長	WG 1
3	玉野商工会議所青年部会長	WG 1
4	玉野市商工観光課課長	WG 1
5	玉野市小学校長会代表	WG 2
6	玉野市中学校長会代表	WG 2
7	玉野市青少年育成センター所長代理	WG 3
8	スクールカウンセラー	WG 2
9	地域住民代表	WG 3
10	玉野商工高等学校PTA会長	WG 2
11	玉野市教育委員会学校教育課課長 (兼玉野商工高等学校事務長)	WG 3
12	玉野商工高等学校校長	WG 1
13	玉野商工高等学校教頭	WG 3

研究推進協議会委員 (学校運営協議会委員13名を含む)

No.	所属団体・役職等	WG
14	株式会社三井E&Sビジネスサービス人事総務サービス部玉野分室長	WG 1
15	株式会社宮原製作所取締役経営企画部長	WG 1
16	三国工業株式会社経営管理部課長	WG 1
17	瀬戸内温泉たまの湯支配人	WG 3
18	両備バスカンパニー玉野営業所所長	WG 3
19	前NPO法人UNOICHI 実行委員会理事	WG 3
20	デザイン事務所アダプト (地域住民)	WG 3
21	フリーアナウンサー (地域住民)	WG 2
22	岡山大学大学院教授	
23	玉野市教育委員会教育長	WG 2
24	玉野市教育委員会学校教育課主幹 (指導主事)	WG 2

事務局		
No.	所属団体・役職等	WG
25	玉野商工高等学校事務長代理	WG
26	玉野商工高等学校主幹教諭	WG 2
27	玉野商工高等学校教務課長	WG 3
28	玉野商工高等学校総務課長	WG 3
29	玉野商工高等学校生徒指導課長	WG 2
30	玉野商工高等学校進路指導課長	WG 1
31	玉野商工高等学校教育相談室長	WG 2
32	玉野商工高等学校工業科主任	WG 1
33	玉野商工高等学校商業科主任	WG 1
34	玉野商工高等学校数学科主任（共通教科代表）	WG 2

## (2) WGの活用

WGは、連携先別にWG 1（企業連携）、WG 2（小中学校との連携）、WG 3（ボランティア活動連携）の三つを設置し、各研究推進協議会委員から具体的な意見を集約しやすいようにした。

実際の運用では、研究推進協議会委員とともに事務局である本校教職員もWGに加えた（合計34名）。また、生徒の意見も取り入れるべきだという委員の意見により、年度途中から生徒をWG等の協議に加えた。

## 2. 評価の「見える化」と実践の充実

### (1) 生徒の成長に関する評価の「見える化」

「C o C o L o（こころ）の教育」を推進するために、授業や特別活動、ボランティア活動等の教育活動すべてにおいて生徒にルーブリックを意識させ、成長を促す仕組みが必要と考えた。また、第1回学校運営協議会の協議の中でも、委員から「ボランティア活動は従来から盛んに行っているが、より充実したものにするために事前の意識付けと振り返りを行うことが重要である」「高校生に、ボランティア活動等の企画運営に携わってもらえば、意識が高まる」等の意見が出された。

これらの意見を踏まえて、ルーブリックを活用したGROW UPシートを作成した（資料参照）。GROW UPシートとは、学校行事やボランティア活動などで、九つの資質・能力のうち、生徒自身が成長させたい三つの資質・能力を選択し、自分で目標を定め、事後に振り返りを行い、自分の成長を確認するポートフォリオ・シートである。ルーブリック表に基づいて事前・事後で5段階評価を記入し、自由記述も記録するようにした。

### (2) 従来の活動の拡充

#### ア. 企業連携の取組

本校は、玉野市商工観光課との連携により、2年生において夏季休業中にインターンシップを3～4日間行っており、全員実施になって3年目となった。今年度は、66事業所に133名の生徒が参加した。

#### 【インターンシップ発表会の充実】

インターンシップ実施後は、報告書の作成、クラス発表会、校内発表会を行うが、校内発表会では、受け入れ事業所にも参加を呼びかけた。参加した事業所からは、「この発表会は一般公開しても良い」「自社の教育内容を見直すきっかけになった」など前向きな意見があり、地域で学習するフィールドが広がっている実感を得られた。今後は、一般公開や校外での発表などに加えて、地域企業等と連携したデュアルシステムの導入を視野に考えていく必要がある。





「インターンシップの様子」

## イ. 小中学校との連携の取組

### 小中学校との連携強化

本校は、平成21年度から、こづかい帳やマナー講座など商業の学習内容の広報活動の一環として市内5中学校の3年生を対象に出前講座を行ってきた。その後、平成24年度から中学2年生のチャレンジワーク事前学習講座も加わり、平成27年度からは、本校3年生が母校に行き、面接マナーの出前講座を行っている。現在では、市内7中学校の他、岡山・倉敷市内の中学校からも依頼を受け、今年度は延べ23校となった。

#### 【小中学校との接続を意識したキャリア教育の充実に向けて】

研究推進協議会のWG2（小中学校との連携）の議論では、来年度、小中高連携 キャリア教育の一環として未来手帳（本校独自のスケジュール帳）を活用した一日のスケジュール管理の出前講座を希望するという案が出た。さらに、プログラミングやドローンを使った授業を生徒が行う出前講座も提案され、それらが持続可能な取組になるカリキュラム編成を行う予定である。



「中学校での出前授業の様子」

## ウ. ボランティア活動連携の取組

### (ア) 瀬戸内国際芸術祭2019春会期

#### 【機械科とビジネス情報科の初コラボレーション】

昨年度、ビジネス情報科が作成した観光案内図「すみたまっぷ」を機械科が亚克力板印刷加工し、多くの来場者にプレゼンテーションを行った。また、外国人観光客に英語と身振り手振りを交えてコミュニケーションを行った。



「機械科のブース」

(イ) たまの港フェスティバル

【ステージ内容の新規企画・運営】

実行委員会からの依頼を受け、ステージの内容を新規に企画し、運営した。新たに企画した内容は次のとおりである。生徒会による玉野商工活動トークショー、機械工作部による学科紹介。ビジネス経済応用選択者による商店街の生CMインタビューなど。



「ステージの様子」

(ウ) 読み聞かせボランティア

【図書委員会による初の企画実施】

市図書館の依頼を受け、図書館司書による指導を受け、図書委員会が幼児に対する絵本の読み聞かせや絵本クイズ等、様々な工夫をして企画実施した。



「読み聞かせの様子」

(エ) 宇野まち竹あかり2019みなと灯幻郷

【宇野港魅力化の取組】

玉野青年会議所の依頼を受け、瀬戸内国際芸術祭夏会期に合わせた竹あかりの設置を、全体のレイアウトを考え、行った。青年会議所の会員と交流し、宇野港の魅力化に取り組んだ。



「竹あかりの設置の様子」

(オ) 瀬戸内国際芸術祭2019秋会期

【研究推進協議会委員と生徒によるコラボレーション】

UNOICHI実行委員会の依頼を受け、瀬戸内国際芸術祭公式フード「たまのたまべん」の販売に参加した。研究推進協議会委員のコーディネートのもとで彩りや形にこだわった食材詰めや観光客に向けた広報活動も行った。



「たまべんの販売の様子」

(カ) 深山公園アンブレラプロジェクト

【課題解決型ボランティアへのチャレンジ】

県備前県民局と市協働推進課の依頼を受け傘をアートのテーマとした深山公園アンブレラプロジェクトをビジネス情報科3年課題研究の「デザイン制作」グループが取り組んだ。

テーマにもとづき、デザインやアイデア、作品内容、現地調査、設置作業など試行錯誤しながら、2か月の長期にわたる課題解決型ボランティアを行った。



「アンブレラプロジェクト」

(キ) みやま公園まつり

【活性化に向けた活動の拡大】

玉野市の深山公園内にあるイングリッシュガーデンの活動スペースにおいて、課題研究「商品開発」グループの販売の他、家庭科部、書道部、報道部、図書委員会、ビジネス経済応用選択者、雄心祭（文化祭）の展示などを行い、活動を大きく広げた。



「書道部の展示」

(3) 新たな活動の創出「生徒と地域が共に創り上げる活動」

研究推進協議会のWGの協議の中で、地域を教育フィールドにして、地域と共に行う新たな活動を、生徒と研究推進協議会委員が共に創り上げていった。共に意見を出し合い、いくつも出された提案の中から、実施可能なものを先行的に実行した。

ア. 企業連携の取組

第1回研究推進協議会のWG1（企業連携）の協議の中で、企業と生徒が協働し、地域貢献できる活動を模索した。その中で、バス停の整備でベンチ（C o C o L o ベンチ）の設置に向けた取組の提案が行われた。ビジネス情報科の生徒がバス停の調査を行い、機械科が作成、地元企業が材料の提供や切断加工等の技術指導を担うなどの可能性を探った。

今年度は、9月にビジネス情報科3年課題研究の授業で、「地域のデザインをする」をテーマにバス停の調査を行い、問題点の洗い出しを行うとともに、機械科の生徒が、企業からの材料の提供や切断加工等の技術指導を受けてベンチを試作した。今後は、市の道路管理課等関係各所との相談調整で設置に向けた準備を行う予定である。



「ベンチ調査」



「バス停調査」



「ベンチ製作」



「試作したベンチ」

#### イ. 小中学校との連携の取組

第2回学校運営協議会及び研究推進協議会のWG2（小中学校との連携）の協議の中で、生徒が中高生の共通するスマホの問題について話し合いたいと提案し、玉野市立玉中学校との合同スマホ学習会（C o C o L o学習会）を行うことを決定した。その後のWGの委員会で、今年度中に共通の課題を洗い出すためのアンケートを高校生が企画実施し、互いの課題の情報共有を行い、目標設定することを決定した。

来年度は、合同スマホ学習の実施とスマホ利用のルールづくりを進めていく予定である。



「WG2（小中学校との連携）の様子」

#### ウ. ボランティア活動連携の取組

##### (ア) ボランティア通信（C o C o L o通信）の協働作成

地域連携担当教員が、活動内容を「見える化」し、教職員と生徒の参画意識を高めるため「ボランティアのC o C o L o（C o C o L o通信）」を発行した。ボランティア名称、日時、参加生徒・教職員数、参加生徒の気づきや意見、主催者からの声、今後のボランティア日程などを掲載し、12月までに12回発行した。A3サイズでカラー印刷したものは教室掲示し、教職員には参加生徒・教職員名が入ったもの、近隣中学校へは「C o C o L o通信」の名称で配付し本校のボランティア活動について情報提供を精力的に行った。今後は、生徒や地域の関係者と共に作成、発行に当たることを検討している。



「ボランティア通信 [C o C o L o]」

##### (イ) クリーンアップDAYボランティア（C o C o L oボランティア）

研究推進協議会委員や本校卒業生がメンバーで活躍しているUNOICHI実行委員会の企画SOS（SaveOurSea）プロジェクトに生徒が参加し、大学生や他校生徒とともに清掃活動を行った。SDGsの視点から、様々な地球環境問題を考える機会となった。また、3年ビジネス情報科の課題研究で携帯ゴミ箱の作成し販売を行った。



「SOSプロジェクト」

(ウ)「キッズビジネスタウンたまの」の改善に向けた動き

「キッズビジネスタウンたまの」は、「子どもたちが創る子どもたちの街」の理念のもとで、市役所や地域の企業等と連携し、「みんなで働き、遊ぶことを通して、共に協力しながら街を運営し、社会の仕組みを学ぶ」キャリア教育の一環としての地域協働活動であり、今年度で8回目を迎えた。

【生徒による課題の分析】

11月2日に実施した後、この活動の主体であるビジネス情報科3年生が、来場者等のアンケートを分析し、待ち行列の対応、店舗設計、陳列方法、役割分担、体験ブースの増設、ニーズを踏まえたブースの企画等を課題として抽出した。生徒は、この活動を通じて、「自分たちでゼロからつくりたい」という思いを強く抱くようになり、第2回の研究推進協議会の場で委員に伝えた。

【生徒と研究推進協議会委員の協議による改善の動き】

その後のWG3（ボランティア活動連携）の議論では、「自分たちで考えた企画にプロのアドバイスをもらえる とより本物に近づく」「ブースを増やすには人手が必要」などの意見が出された。これを踏まえて、生徒と委員が協議する中で、「1年生もこの活動に参加」「プロのアドバイスを受けるには地域住民や企業にも参加が必要」「ブース増加にもつながる」「空き店舗や商店街で展開すればより本物に近づけることができる」「ブースの魅力化や地域の活性化につながる」等、改善の方向性を見出した。

すでに来年度からの参加希望の企業もあり、また、小学生や保護者のこのイベントに対する需要も高く、本校の生徒のGROW UPシート評価も成長度が高い。今後は、九つの育成したい資質・能力を伸ばす取組としてカリキュラムに組み入れることを考え、第10回に向けて来年度以降、生徒の参画によりリニューアルさせる予定である。



「キッズビジネスタウンたまの開会式」



「キッズビジネスタウンたまのブース」

### III 研究の成果と課題

本実践研究を行うことにより、本来学校運営協議会が担う学校運営の方向を協議し支援につなげる体制が構築され、学校運営に関する基本方針を踏まえた教育支援活動の展開が円滑化した。また、学校、家庭、地域が課題や情報等を共有することで地域住民や保護者等による学校支援が活性化されるとともに、生徒の資質・能力の向上にも一定の成果が得られたと考える。具体的には、次のような成果や課題が見い出された。

#### 1. 「C o C o L o (こころ) の教育」に掲げる育成したい九つの資質・能力をバランス良く伸ばすことについて

##### (1) ルーブリック評価の分析

生徒と教職員に対して年度初と年度末にルーブリック評価を実施し、次のような結果が得られた。今年度の目標は、育成したい九つの資質・能力のうち、五つの資質・能力(他者理解力、人間関係形成力、地域文化理解力、社会参画力、課題発見解決力)について、各学年0.3ポイント上昇させることであった。

ルーブリック評価 ※網掛けは、今年の目標項目

1年生徒	自己理解力	他者理解力	人間関係形成力	地域文化理解力	キャリア実践力	社会参画力	知識力	創造力	課題発見解決力	平均
年度初	2.8	3.4	2.9	2.2	2.5	2.0	2.2	2.1	2.4	2.5
年度末	3.0	3.4	3.1	2.3	2.5	2.3	2.6	2.5	2.5	2.7
比較	0.2	0.0	0.2	0.1	0.0	<b>0.3</b>	0.4	0.4	0.1	0.2

2年生徒	自己理解力	他者理解力	人間関係形成力	地域文化理解力	キャリア実践力	社会参画力	知識力	創造力	課題発見解決力	平均
年度初	2.7	3.2	3.0	2.2	2.1	2.2	2.5	2.3	2.3	2.5
年度末	3.0	3.3	3.3	2.7	2.7	2.5	2.7	2.7	2.7	2.8
比較	0.3	0.1	<b>0.3</b>	<b>0.5</b>	0.6	<b>0.3</b>	0.2	0.4	<b>0.4</b>	0.3

3年生徒	自己理解力	他者理解力	人間関係形成力	地域文化理解力	キャリア実践力	社会参画力	知識力	創造力	課題発見解決力	平均
年度初	2.6	3.2	2.9	1.9	2.3	2.0	2.2	2.1	2.1	2.4
年度末	3.2	3.6	3.4	2.8	3.2	2.9	3.0	2.9	2.9	3.1
比較	0.6	<b>0.4</b>	<b>0.5</b>	<b>0.9</b>	0.9	<b>0.9</b>	0.8	0.8	<b>0.8</b>	0.7

1年教員	自己理解力	他者理解力	人間関係形成力	地域文化理解力	キャリア実践力	社会参画力	知識力	創造力	課題発見解決力	平均
年度初	1.9	1.6	1.9	1.3	1.6	1.3	1.4	1.3	1.2	1.5
年度末	2.7	2.4	2.5	1.8	2.4	2.1	2.2	1.8	1.9	2.2
比較	0.8	<b>0.8</b>	<b>0.6</b>	<b>0.5</b>	0.8	<b>0.8</b>	0.8	0.5	<b>0.7</b>	0.7

2年教員	自己理解力	他者理解力	人間関係形成力	地域文化理解力	キャリア実践力	社会参画力	知識力	創造力	課題発見解決力	平均
年度初	2.0	1.9	1.9	1.6	1.9	1.4	1.7	1.4	1.7	1.7
年度末	3.2	3.2	3.2	2.5	2.7	2.8	2.7	2.8	2.6	2.9
比較	1.2	<b>1.3</b>	<b>1.3</b>	<b>0.9</b>	0.8	<b>1.4</b>	1	1.4	<b>0.9</b>	1.1

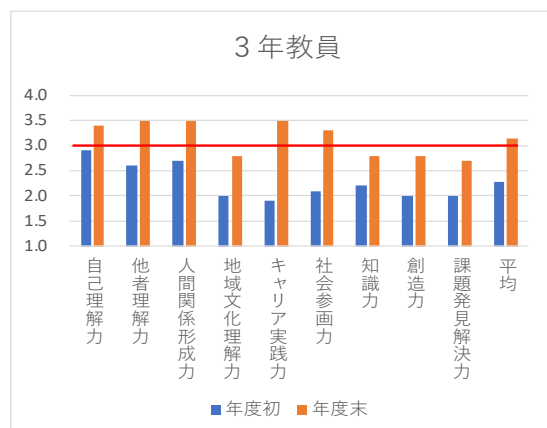
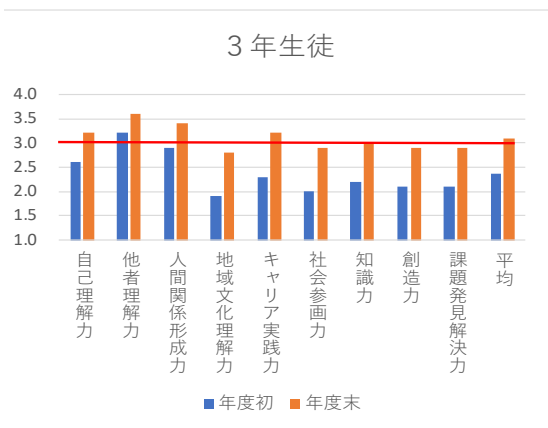
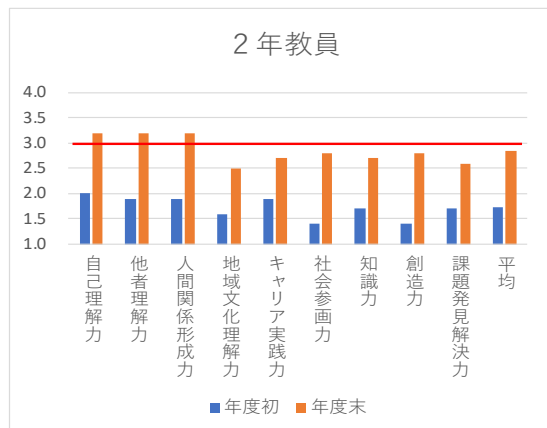
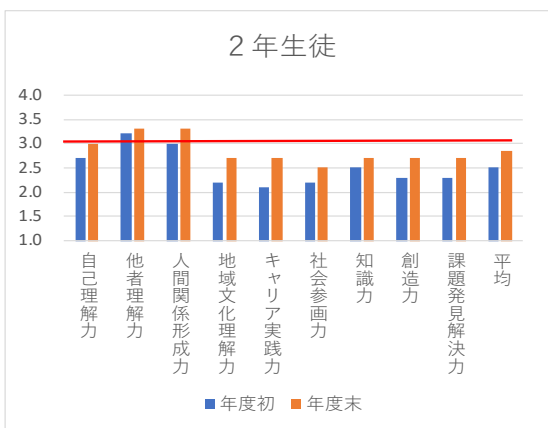
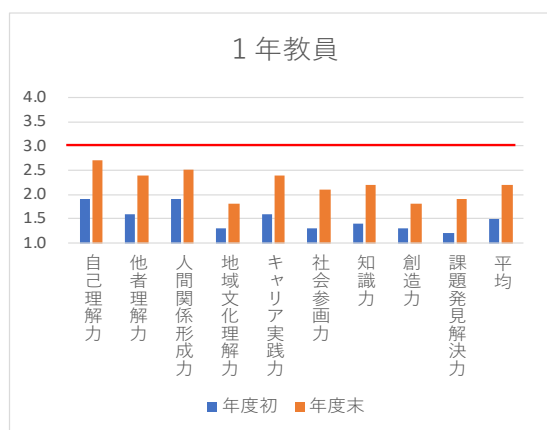
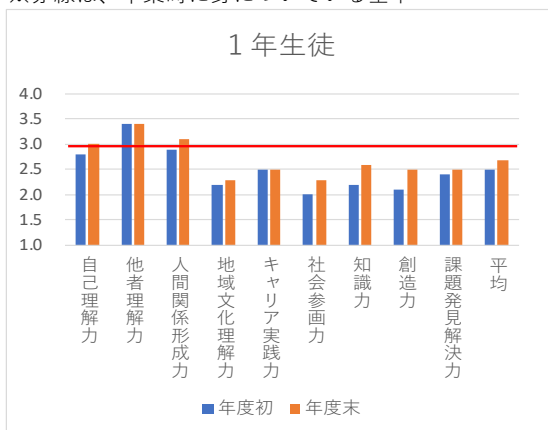
3年教員	自己理解力	他者理解力	人間関係形成力	地域文化理解力	キャリア実践力	社会参画力	知識力	創造力	課題発見解決力	平均
年度初	2.9	2.6	2.7	2.0	1.9	2.1	2.2	2.0	2.0	2.3
年度末	3.4	3.5	3.5	2.8	3.5	3.3	2.8	2.8	2.7	3.1
比較	0.5	<b>0.9</b>	<b>0.8</b>	<b>0.8</b>	1.6	<b>1.2</b>	0.6	0.8	<b>0.7</b>	0.9

分析表から生徒も教職員も伸び率に差があるものの、総じてどの資質・能力も向上しており、九つの資質・能力を概ねバランスよく伸ばすことができているといえる。

中でも地域を教育フィールドにしている観点から、地域文化理解力と社会参画力の生徒評価に着目してみると、地域文化理解力の伸び率は、1年生0.1ポイント、2年生は0.5ポイント、3年生は0.9ポイント、社会参画力の伸び率は、1・2年生は0.3ポイント、3年生は0.9ポイントといずれも学年が上がるにつれて伸び率が大きくなる傾向を示している。このことから、発達段階に応じた「C o C o L o (こころ) の教育」の浸透の成果が一見できる。

しかし、この二つの資質・能力は、いずれも卒業までに求めるレベル3を年度末データで満たしておらず、1・2年生で六つ、3年生で四つの資質・能力でも満たしていない。

※赤線は、卒業時に身につけている基準



この要因は、次の学校自己評価アンケートの「地域文化理解力に学習への対応」の問いに対する回答から見て取れる。この問いに対する肯定的回答が、教職員66.7%、保護者54.8%、特に生徒36.9%とかなり低い。このことから、地域文化理解力や社会参画力の向上は、地域を教育フィールドにした学習活動だけではなく、本校教育課程や学校グラウンド・デザインに位置付け、教育全体計画の見直しを図らなければならない。特に各教科での地域を題材にした教材開発など、教科の特性を生かした授業づくりが必要となる。

【地域文化理解力】（学校自己評価アンケート）

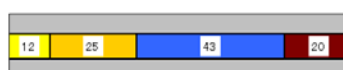
【教職員】学習活動を通して地域の課題について考えさせるように適切な指導を行っている。



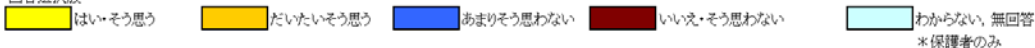
【保護者】お子様は、学校で地域の課題について学習している。



【生徒】自分は、授業中に地域の課題について考えることがある。



回答選択肢



\*保護者のみ

## (2) GROW UPシート評価の分析

今年度は、学校グランドデザインの「どのように学ぶか（教育課程の実施等）」に掲げた学校行事等に加えて、本実践研究の中で地域を教育フィールドにしたボランティア活動においてもGROW UPシートを活用した。その結果と振り返りの記述は、次表のとおりである。

行事	目標を上回る	目標達成	目標を上回った項目・数／総数
港フェスティバル	9.3%	74.0%	他者理解力 1、人間関係形成力 10、地域文化理解力 6、課題発見解決力 2／14
オープンスクール	11.5%	76.9%	人間関係形成力 3／3
ビーチサッカー	7.4%	63.0%	人間関係形成力 2、課題発見解決力 1／2
インターンシップ	6.7%	77.0%	人間関係形成力 7、社会参画力 1、課題発見解決力 2／9
キッズビジネスタウン（2年）	16.5%	82.0%	人間関係形成力 16、社会参画力 12、課題発見解決力 12／22
キッズビジネスタウン（3年）	21.1%	85.5%	人間関係形成力 19、社会参画力 16、課題発見解決力 14／32

※目標達成とは、行事後評価が行事前評価と同じか上回った生徒の割合。目標を上回るとは、行事後評価が行事前評価より上回った生徒の割合である。目標を上回る項目・数／総数とは、目標を上回った生徒の総数のうち、目標を上回った項目と数である。

一回の活動ですぐに結果を求めることは難しいが、事前に目標を定め、事後に振り返ることにより、学校行事やボランティア活動に意欲的に取り組むようになっていっていることがわかる。ここでも、社会参画力の向上が顕著に見られるのと同時に、課題発見解決力も伸びたと生徒が感じていることに注目したい。

### 【GROW UPシート 生徒記述から】

<p>(キッズビジネスタウンたまの)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学生と協力して商品が売ることができ、主体的に取り組むことができた。自分に何が足りないか改善点が見つかった。</li> <li>・小学生のお手本になれるように、自分から話しかけることができた。</li> <li>・小学生に指示したこと以外の気づいたことを教えることができ、課題を見つけ解決方法を考えた。</li> <li>・場所がわからない人に、言葉遣いに気をつけて案内でき、この取組の意義が理解できた。自分が担当したところは、工夫してすることができた。</li> <li>・小学生に適切な言葉で対応でき、地域の人ともコミュニケーションがとれた。</li> <li>・小学生の目線にたって上手に連携してブースの仕事に取り組めた。</li> <li>・小学生に優しく教え、楽しく話ができ、社会的な取組を理解することができた。</li> </ul> <p>将来について、課題を見つけることができた。</p>
--

特に「キッズビジネスタウンたまの」は、小中学生や保護者など異世代間が地域を巻き込んで交流する活動であり、その傾向が強くうかがわれる。前述のように、今後、「キッズビジネスタウンたまの」を生徒主体で改善していく予定であるが、このような地域との協働の取組が、生徒の社会参画力や課題発見解決力以外の資質・能力向上につながるよう仕掛けていくことが課題である。



### (3) 学校運営協議会や研究推進協議会での地域からの意見

地域と学校の連携を進めるに当たり、今後一層の事業拡大を協議する上での参考として、年度初と年度末に、学校運営協議会委員及び研究推進協議会委員を対象に、本校に対する意識調査（資料参照）を実施し、次のような結果を得た。

- ・すべての質問項目に対する肯定的回答の割合（平均）は、年度初78.2%から年度末93.2%に大幅に上昇した。
- ・年度末ではすべての質問項目のうち3項目が、肯定的回答が100%になった。
- ・委員による学校行事への参加回数5回、授業参観への参加回数は3回であった。
- ・学校の教育活動に対する肯定的な意見を集約できた。

ただし、この結果は、コミュニティ・スクールの導入により期待する効果の一つ「取組の方向性に係る地域との共有と熟成」について、「始まりの始まり」であることに留意する必要があると考えている。

#### 【「C o C o L o（こころ）の教育」への意見記述から】

- ・小学生は高校生とのふれあいの中で、高校生への憧れができる。小学生はキャリアパスポートに書ける。高校生の自己肯定感も上がると思う。交流も含めてキャリア教育につなげていきたい。
- ・高校生は課題解決型ボランティアにするのがよい。自分で町の問題点を発見し、解決策を提案し、ボランティア活動につなげ貢献する。また、ボランティアをすることによって、マナーやコミュニケーションも身につく。1年生から全員ボランティアに参加し地域を知ることが大切。イベントなどを考えてもおもしろい。
- ・組織的な地域連携について、コンソーシアムを構築する必要がある。そのためには、地域に玉野商工の生徒にどんな力を付けさせるのか十分伝える必要がある。

以上の様々な「C o C o L o（こころ）の教育」への評価から、学校に多様な人々が関わっていくことで、多くの大人の専門性や地域の力を生かした教育活動等が実施され、学校での学びがより豊かに、広がりをもったものとなり、生徒の学びが充実すること、信頼できる大人と多くの関わりをもち、愛情を注がれることにより、自己肯定感や他人を思いやる心など豊かな心が育まれていると思われる。生徒から「地域の人と一緒に活動して、感謝を学ぶことができた」「地域で活動して、街を良くする方法があると感じる機会になった」という声が聞かれるなど、地域の人々に支えられ学んでいくことで、地域への愛着が芽生え、地域の担い手としての自覚が育まれていると考える。

### (4) 課題と展望

育成したい九つの資質・能力については、一年間でいずれも確実に伸びた。特に、地域文化理解力、社会参画力、課題発見解決力については、本実践研究の取組により向上が図られたと評価できるだろう。しかし、九つの資質・能力を「バランス良く」伸ばすところまで、取組の成果が及んだかどうかについては、現時点では即断できない。本実践研究における地域との協働の取組は、まだ始まったばかりであり、今後の実践の中で、九つの資質・能力全体の育成につながるような仕掛けと手立てをさらに工夫し、評価していくことが課題であろう。

気になるのは、協議会やWGで協議を進めていく中で、協議内容が、何をするのか、何ができるのかに偏りが生じることが多く見受けられた点である。「C o C o L o（こころ）の教育」の目指す育成したい資質・能力や専門性の高い商業、工業のどのような学びを深めるかという視点を大切にし、地域と意識を十分に共有する必要がある。

これからの生徒には、厳しい挑戦の時代を乗り越え、高い志や意欲を持つ自立した人間として、他者と協働しながら創造的に生き、未来を切り拓いていく力が求められている。生徒の「生きる力」は、多様な人々と関わり、様々な経験を重ねていく中で育まれるもの

であり、学校のみで育めるものではない。生徒の確かな育ちを保障するには、信頼できる大人との多くの関わりが不可欠である。人と人との関わりを通して、C o C o L o（こころ）は育つ。

そのため地域社会を構成する一人一人が当事者としての役割と責任を自覚し、主体的・自主的に生徒たちの学びに関わり、支えていく中で、「C o C o L o（こころ）の教育」を定着させ、大人もともに学び合い成長を遂げていく姿を目指したい。

## 2 コミュニティ・スクール等の仕組みを活かした学校と地域社会の持続可能な連携・協働体制のモデル構築について

### (1) 学校評議員会から学校運営協議会への移行の促進

学校の教育活動に対し様々な角度や多様な見方からの意見をもらうことで、教育活動や地域連携に関する点検や見直しを図り、教職員や保護者・地域の人々のコミュニティ・スクールに対する意識づくりを促進できた。

学校運営協議会の必須機能である学校運営の基本方針の承認は、計画の段階から地域の人々や保護者等の参画を得た学校運営ができ、校長の異動があっても持続的な学校運営が図られる点で意義があることが再認識できた。

### (2) WGを通じた地域学校協働活動への参加促進（学校運営協議会を熟議の場に）

本実践研究では、学校運営協議会の委員について、学校のミッションや取組の方向性に即して選定し（「テーマ・コミュニティ」）、企業連携、小中学校との連携、地域ボランティア活動連携という視点から三つのWGに分けて、広く意見を求めた。これにより、地域の意見をより学校運営の改善や具体的な取組に反映しやすくなった。学校運営協議会を、熟議（熟慮と議論）の場にすることが重要であることを改めて実感した。熟議の仕組みの構築により、地域による学校への支援の拡大や、風通しのよい学校運営、学校・家庭・地域の持続的な信頼関係の構築につなげることが期待できる。そのためにも、委員は、前述のような「テーマ・コミュニティ」に基づいて選定するのが望ましく、学校が立地する自治体（市町村）にこだわる必要はないと考える。

教職員の意識については、学校運営協議会に参画した教職員は学校運営への改善意識が高まったが、直接参画しなかった教職員の意識の醸成は課題である。今後は、全教職員が、いずれかのWGに属するような体制の構築も一考に値すると思われる。

### (3) 学校運営協議会等への生徒の参加

生徒を学校運営協議会やWGに参加させることにより、地域社会を構成する当事者としての役割と責任を自覚させることができる。また、生徒による主体的・自主的な社会貢献活動や学習活動を取り込むことにより、学校運営の質的改善に向けたPDCAサイクルを持続的に確立しやすくなると思われる。また、地域の「大人」にとっても、生徒と意見を交わすことが、自らの役割と責任を再認識する機会になったと思われる。

課題として次の二点を挙げるができる。

- ・どの生徒を、どの場面で、どのように参加させるか。
- ・生徒全体の動きとして、どのように意識の醸成を図るか。

今後、恒常的に学校運営協議会に参加し、全校生徒の先導役となるような組織（生徒実行委員会（C o C o L o委員会））のような組織を検討する必要がある。

### (4) 課題と展望

学校運営協議会の設置について、当初、次のような課題認識は否めなかった。

- ・学校評議員制度のような類似制度との違いが不明確である。
- ・既に保護者・地域の意見が反映されているので必要ない。
- ・任用の意見具申により人事が混乱したり、学校の自律性が損なわれたりするのではないか。

実際には、前述のような取組が多様な人材の英知を集結することができる環境を生み出し、一方的な支援にとどまらない、主体的・能動的な取組の展開へと導いている。

今後も、持続可能で実現可能な適切な取組を実施していくためには、委員が一方的に意見を述べるだけでなく、地域が何を「する」のかも含めて意見を述べてもらようようにすることが重要であると考えている。

【持続可能な連携・協働体制の構築についての意見記述から】

WG 1（企業連携）

- ・商工会議所が、学校と地域をつなぐコーディネーター的な役割を果たすことができればよい。
- ・玉野市の人が玉野市に残って持続する町にしたい。現場へ行って見て、今学んでいることがどのように社会とつながっているのかがわかるのではないか。社会の仕組みを早い段階で、地域の大人（先輩）から学ぶことが大切だ。

WG 2（小中学校との連携）

- ・学校行事に地域の人々が参加することが重要である。
- ・先生の負担感が増すと持続可能にならない。地域の方を上手に取り込み、任せていくことが大切である。

WG 3（ボランティア活動連携）

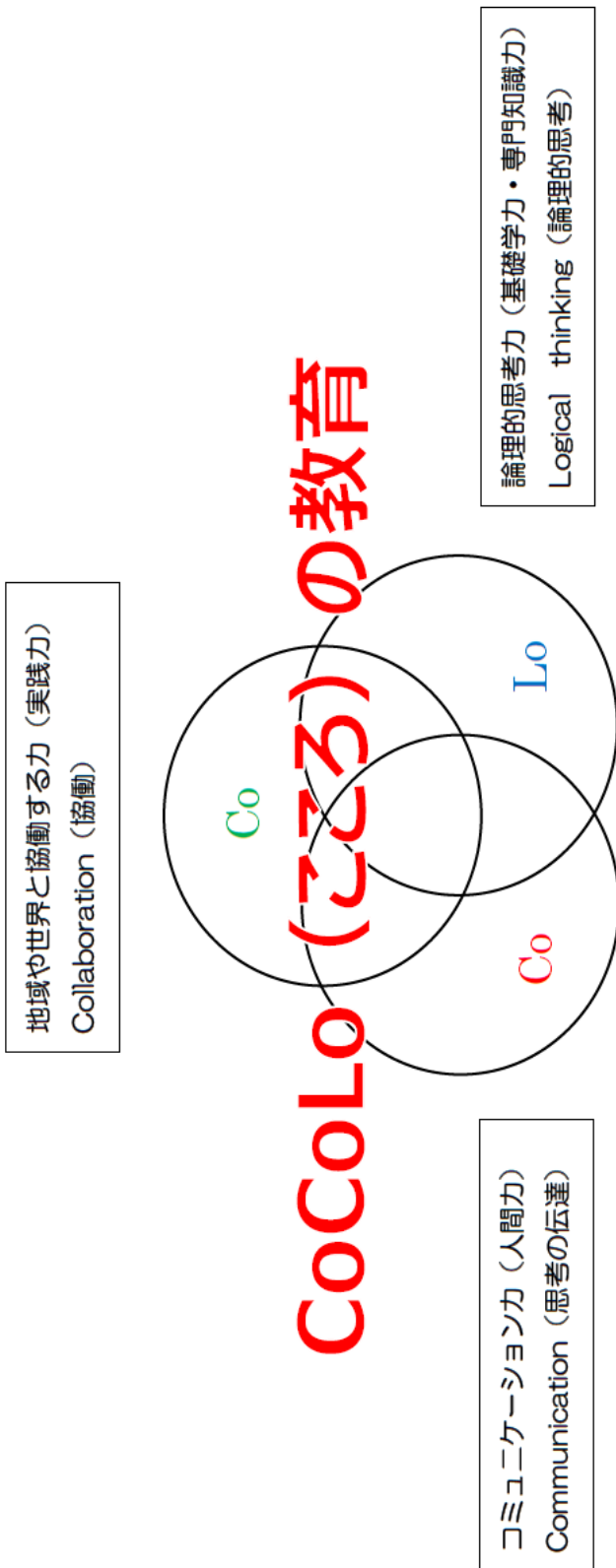
- ・持続可能なボランティア活動にするために、校内で組織的なボランティア委員会を教職員と生徒でつくり、外部にも同様の協力組織をつくるのがよい。
- ・「C o C o L o（こころ）の教育」を実現するには、授業の中のほうが受け入れ側も協力しやすいと思う。

以上のような学校運営協議会での意見からも、今後は、地域の人々との交わりで得られる多様な経験を通じ、全教職員が豊かな指導力の発揮につなげていくとともに、教育や生徒の成長に対する責任を分かち合い、学校がやるべきこと、家庭がやるべきこと、地域がやるべきことの役割分担を図ることで、教職員が生徒と向き合う時間の確保につなぎたい。

また、持続可能な取組や多くの地域の人々の参画を促していくためには、学校と地域の人々が全体として目標を共有し、役割分担を進めながら、組織的な取組を進める必要がある。その意味で、両者をつなぐコーディネート機能の充実が重要であり、学校教育と地域の実情の両方に通じたコーディネーター（社会教育主事有資格者、PTA役員経験者等）の配置が、学校と地域の双方において望ましい。教員の任用については、12月に学校運営協議会から玉野市教育委員会に、合議体としての意見具申をしたが、これが実現されることを期待している。

# CoCoLo (こころ) の教育 育成したい資質・能力

## 生徒につけさせたい力のイメージ



## 生徒につけさせたい9つの力

コミュニケーション (人間力)		地域や世界と協働する力 (実践力)		論理的思考力 (基礎学力・専門知識力)	
自己理解力	他者理解力	人間関係形成力	地域文化理解力	キャリア実践力	社会参画力
				知識力	創造力
					課題発見解決力

※本校生徒、保護者、学校評議委員の意見に加えて、玉野市立高校在り方検討会議、関係中学校及び企業の意見も反映し、本校教員全員で協議・作成 (平成30年度)

C o C o L o (こころ) の教育 育成したい資質・能力 ループリック

Communication (思考の伝達)		Collaboration (協働)			Logical thinking (論理的思考)			
コミュニケーション力 (人間力)		地域や世界と協働する力 (実践力)			論理的思考力 (基礎学力・専門知識力)			
自己理解力	他者理解力	人間関係形成力	地域文化理解力	キャリア実践力	社会参画力	知識力	創造力	課題発見解決力
<p>・自分の長所と短所を理解しようとしている。</p>	<p>・相手の気持ちを理解しようとしている。</p>	<p>・親しい仲間と協力しようとする。挨拶やマナーの必要性を知っている。</p>	<p>・地域の伝統文化や活動について理解しようとしている。</p>	<p>・自分の進路について考えている。</p>	<p>・地域の文化的、社会的な取組の意義を理解しようとしている。</p>	<p>・各科目の知識を習得するために必要な学習習慣を身につけようとしている。</p>	<p>・ことづくり<sup>(※1)</sup>、ものづくり<sup>(※2)</sup>、学校生活全般の3分野において、自分の取組環境を理解しようとし、自分のアイデアや意見を考えようとしている。</p>	<p>・自分自身の課題について理解しようとしており、自分自身を成長させるために、自分の習慣を変えようとしている。</p>
<p>・自分の長所と短所を理解している。</p>	<p>・人の話を聞くことができ、相手の気持ちを理解している。</p>	<p>・親しい仲間と協力することができる。挨拶することができ、礼儀やマナーが身についている。</p>	<p>・地域の伝統文化や活動を理解している。</p>	<p>・自分の進路について考えている。 ・未来手帳の活用を心がけている。</p>	<p>・地域に関する文化的、社会的な取組の意義を理解している。</p>	<p>・各科目の知識を習得するために必要な学習習慣の問題点を把握し、改善に努力している。</p>	<p>・3分野において、自分のアイデアや意見を言い、話し合いに参加できる。</p>	<p>・自分自身の課題について自分で発見し、解決するために、自分の習慣を変えるよう努力をしている。</p>
<p>・自分の長所と短所を理解でき、規則(ルール)を守り、基本的な生活習慣が身についており、生活することができる。</p>	<p>・人の話を聞き、相手の気持ちを理解することができる。関わりを持つことができる。</p>	<p>・親しい仲間以外と協力することができる。状況に応じた対応と協力関係を築くことができる。礼儀やマナーが身についている。</p>	<p>・地域の伝統文化や活動を理解し、課題とともに具体的にわたりややく説明することができる。また他国や他地域の文化、習慣にも興味を持ち理解しようとしている。</p>	<p>・高校卒業時の進路について具体的に考えている。 ・未来手帳に記入する習慣がついている。</p>	<p>・地域に関する文化的、社会的な取組に参加することができる。</p>	<p>・各科目の知識を習得するために必要な学習習慣が身についており、課題に取り組むことができる。</p>	<p>・3分野において、自分のアイデア、他学科の意見やアイデアをもとに、他者と協力しながら積極的に活動できる。</p>	<p>・自分自身や学校内、地域や社会において、未来に向けて改善・改革・継続すべき課題を自ら見つけることができる。</p>
<p>・自分の長所と短所を理解でき、自分で考え基本的な生活習慣も身につけており、計画的に生活することができる。</p>	<p>・人の話を聞き、相手の気持ちや立場を考えながら、関わりを持つことができる。</p>	<p>・校内外の他者とお互いの立場を理解し、自発的に働きかけ協力関係を築くことができ、チームで働く力が身についている。</p>	<p>・地域の伝統文化や活動を理解すると共に、課題を見つけて解決策を提案することができる。また他国や他地域の文化、習慣にも興味を持ち理解しようとしている。</p>	<p>・進路実現に向けて具体的に何が必要かを考え行動している。 ・未来手帳を十分活用し、適切に自己のスケジュール管理を行うことができる。</p>	<p>・地域に関する文化的、社会的な取組に参加する事はもちろん、主体的に社会に参画している。</p>	<p>・各科目の知識を習得するために必要な学習習慣が身についており、それぞれの科目で学んだ内容を他科目や他教科で活用できる。</p>	<p>・3分野において、自分のアイデア、他学科の意見やアイデアをもとに、他者と協力しながら積極的に情報収集し、課題の原因や解決方法をアイデアや意見をもとめ独創的に活動することができる。</p>	<p>・学校内、地域や社会において、未来に向けて改善・改革・継続すべき課題を見つめ、課題の原因や解決方法をアイデアや意見をもとめ独創的に活動することができる。</p>
<p>・自分の長所と短所を理解でき、自分の行動(基本的な生活習慣も含め)により良い影響を他人に与えている。</p>	<p>・人の話を聞き、相手の気持ちや立場を考えながら、関わりを持つことができる。</p>	<p>・校内外の他者とお互いの立場を理解し、自発的に働きかけ協力関係を築くことができ、チームで働く力が身についている。</p>	<p>・地域の伝統文化や活動を理解すると共に、課題を見つけて解決策を提案することができる。また他国や他地域の文化、習慣にも興味を持ち理解しようとしている。</p>	<p>・高校卒業時の進路だけでなく、自分の人生について具体的な見通しを持って行動している。 ・未来手帳を活用し、適切に自己と全体のスケジュール管理を行うことができる。</p>	<p>・地域に関する文化的、社会的な取組に参加する事はもちろん、主体的に社会に参画している。</p>	<p>・各科目の知識を習得するために必要な学習習慣が身についており、それぞれの科目で学んだ内容を学校や地域をフィールドにして活用することができる。</p>	<p>・3分野において、自分のアイデア、他学科の意見やアイデアをもとに、他者と協力しながら積極的に情報収集し、課題の原因や解決方法をアイデアや意見をもとめ独創的に活動したり評価し、他者したり、他の分野へ応用したりすることができる。</p>	<p>・学校内、地域や社会において、未来に向けて改善・改革・継続すべき課題を見つめ、課題の原因や解決方法をアイデアや意見をもとめ独創的に活動したり評価し、他者したり、他の分野へ応用したりすることができる。</p>

【ループリックの指標は、本校生徒、保護者へのアンケートも参照し、本校教員全員で協議・作成(平成30年度)】

(※1)イベントなどに関する地域や学校の取組。  
(※2)技術習得、生産活動などに関する地域や学校の取組。

玉野市立玉野商工高等学校グランドデザイン（学校経営計画書）（平成31年度版）  
 人、もの、未来をつくる。～CoCoLo（こころ）の教育～

CoCoLo（こころ）の教育=Communication×Collaboration×Logical thinking

ミッション	地域と共にCoCoLo（こころ）を育て、地域に貢献する人材を育成する
-------	------------------------------------

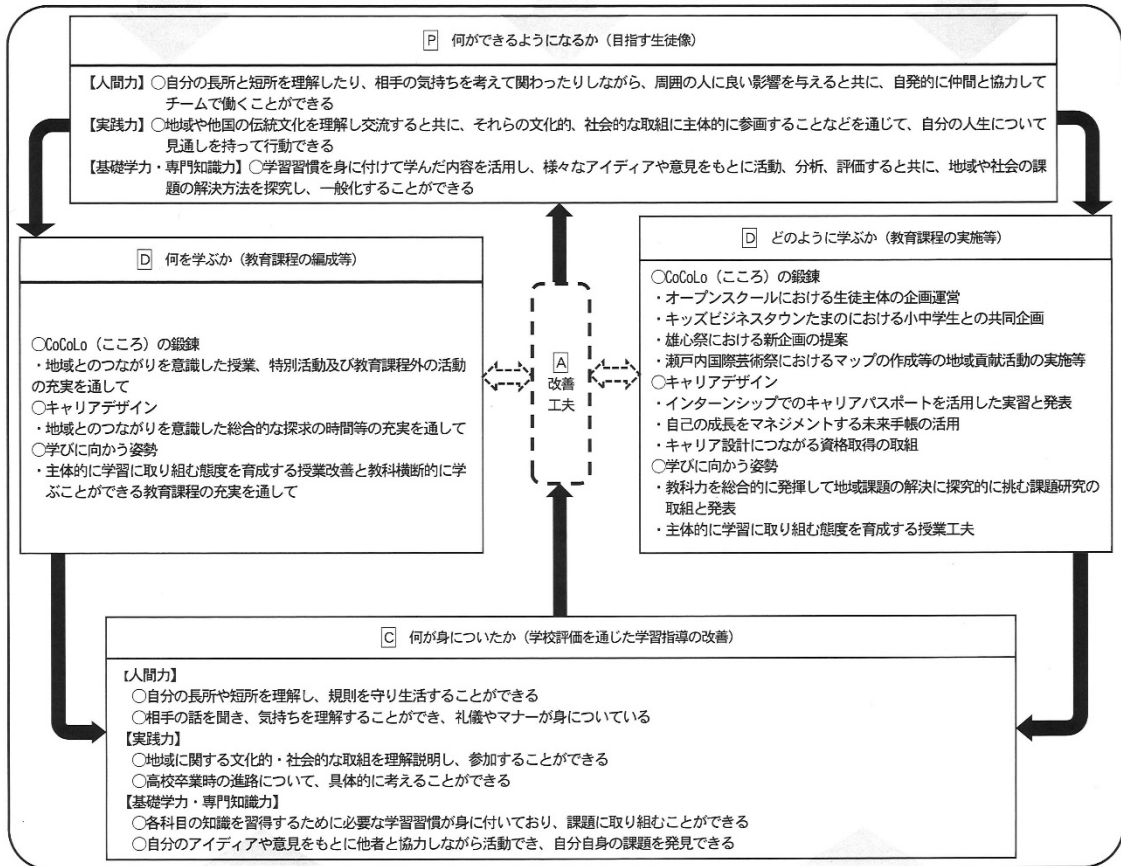
生徒の実態	内外の環境分析
<ul style="list-style-type: none"> <li>○まじめで素直、明るい生徒が多い</li> <li>○地元を愛着を持つ生徒が多い</li> <li>○自己分析が不十分で、人間関係を上手につくることが課題である生徒が多い</li> <li>○受動的で積極性に乏しい生徒が多い</li> <li>○学習習慣が身につけていない生徒が多い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○商業と工業の専門学科併設校である</li> <li>○地域の教育資源が豊富である</li> <li>○ボランティアや学習活動等地域との連携は強く、地域で育ててもらえる</li> <li>○市内の中学生が減少しているにもかかわらず、市内高校の定員数が変わらず、定員割れをしている</li> </ul>

《生きる力を資質・能力として具体化するための3つの柱》

①知識・技能 ②思考力・判断力・表現力等 ③学びに向かう力・人間性等

学校教育目標 ～地域を教育フィールドに～	「共育」地域の教育資源を活かし、地域を担う人材の育成を地域住民と共に行う 「共創」他者と協働でき、主体的に社会に参画できる生徒の育成を行う 「人材」多様な生徒の希望進路を100%達成することを目指す
入学希望者に求める生徒像（機械科・ビジネス情報科共通） （各科の求める生徒像は、本校Webページに掲載）	校訓である「誇り」「ゆとり」「粘り」の精神に共感し、礼儀作法を学び、仲間と協力でき、思いやりをもって前向きに学校生活を送る生徒 地域の良さを理解し、地域と共に学校行事等の特別活動、ボランティア活動、生徒会活動、学級活動、部活動に積極的に取り組む生徒 将来、専門分野のプロフェッショナルとして活躍するために、専門分野の学習や資格取得に意欲的に取り組み、自分自身を成長させる生徒
育成したい資質・能力 ～CoCoLo（こころ）の教育～	【人間力】 Communication…自己理解力、他者理解力、人間関係形成力 【実践力】 Collaboration…地域文化理解力、キャリア実践力、社会参画力 【基礎学力・専門知識力】 Logical thinking…知識力、創造力、課題発見解決力

目標実現に向けた取組の方針



取り組みを支える

実施するために何が必要か (指導体制の充実、必要な支援、家庭・地域との連携・協力)	生徒にどのように支援するか (どのような配慮が必要か)
<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校運営協議会・研究推進協議会の開催</li> <li>○家庭・地域住民・小中学校・地域企業・自治体との連携、(全教職員の参画)</li> <li>○ICT活用（連携・協力に向けたクラウド環境の研究）</li> <li>○新教育課程の検討（両科の融合）</li> <li>○戦略的広報（総務課企画、全教職員の参画）</li> <li>○いじめ防止推進の取組</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「人間関係形成力の育成」を目指した授業設計（全教員による校内研修及び他校視察）、クラス作り、分掌での取組</li> <li>○わかる授業の実践（ユニバーサルデザインを取り入れた授業作り）</li> <li>○個々の生徒への支援計画と実施（特別支援教育の実践力向上）</li> <li>○ルーブリック表による評価を踏まえた教員と生徒及び保護者との面談</li> <li>○学年会や運営委員会、職員会議等での全教職員の協働体制と情報共有</li> </ul>

※「地域」は、小学校、中学校等を含む

2019年度 CoCoLoのGROW UPシート ( )年( )組( )番( )

活動名・授業名	
日時等	

<今回のGROW UP目標> 2019年度の重点目標は「人間関係形成力」です。

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨

CoCoLo (こころ) の教育 育成したい資質・能力 ルーブリック

	Communication (思考の伝達) コミュニケーション力 (人間力)		Collaboration (協働) 協働や連携と協働する力 (協調力)			Logical thinking (論理的思考) 論理的思考力 (基礎学力・専門知識力)			
	自己理解力	他者理解力	人間関係形成力	地域文化理解力	キャリア意識力	社会参画力	知識力	創造力	課題発見解決力
1	・自分の気持ちや考えを相手に伝えることができる。	・相手の気持ちや考えを理解することができる。	・様々な状況の中で、自分の気持ちや考えを相手に伝えることができる。	・地域の文化や歴史について理解することができる。	・自分の将来について考えることができる。	・地域に参画する中で、社会の発展に貢献できる。	・基礎的な知識を習得することができる。	・新しいアイデアや発想を生み出すことができる。	・自分の得意分野について、課題を発見することができる。
2	・自分の気持ちや考えを相手に伝えることができる。理由(理由)を説明することができる。	・相手の気持ちや考えを理解することができる。理由(理由)を説明することができる。	・様々な状況の中で、自分の気持ちや考えを相手に伝えることができる。理由(理由)を説明することができる。	・地域の文化や歴史について理解することができる。理由(理由)を説明することができる。	・自分の将来について考えることができる。理由(理由)を説明することができる。	・地域に参画する中で、社会の発展に貢献できる。理由(理由)を説明することができる。	・基礎的な知識を習得することができる。理由(理由)を説明することができる。	・新しいアイデアや発想を生み出すことができる。理由(理由)を説明することができる。	・自分の得意分野について、課題を発見することができる。理由(理由)を説明することができる。
3	・自分の気持ちや考えを相手に伝えることができる。理由(理由)を説明することができる。具体的な事例を挙げて説明することができる。	・相手の気持ちや考えを理解することができる。理由(理由)を説明することができる。具体的な事例を挙げて説明することができる。	・様々な状況の中で、自分の気持ちや考えを相手に伝えることができる。理由(理由)を説明することができる。具体的な事例を挙げて説明することができる。	・地域の文化や歴史について理解することができる。理由(理由)を説明することができる。具体的な事例を挙げて説明することができる。	・自分の将来について考えることができる。理由(理由)を説明することができる。具体的な事例を挙げて説明することができる。	・地域に参画する中で、社会の発展に貢献できる。理由(理由)を説明することができる。具体的な事例を挙げて説明することができる。	・基礎的な知識を習得することができる。理由(理由)を説明することができる。具体的な事例を挙げて説明することができる。	・新しいアイデアや発想を生み出すことができる。理由(理由)を説明することができる。具体的な事例を挙げて説明することができる。	・自分の得意分野について、課題を発見することができる。理由(理由)を説明することができる。具体的な事例を挙げて説明することができる。
4	・自分の気持ちや考えを相手に伝えることができる。理由(理由)を説明することができる。具体的な事例を挙げて説明することができる。相手の気持ちや考えを尊重することができる。	・相手の気持ちや考えを理解することができる。理由(理由)を説明することができる。具体的な事例を挙げて説明することができる。相手の気持ちや考えを尊重することができる。	・様々な状況の中で、自分の気持ちや考えを相手に伝えることができる。理由(理由)を説明することができる。具体的な事例を挙げて説明することができる。相手の気持ちや考えを尊重することができる。	・地域の文化や歴史について理解することができる。理由(理由)を説明することができる。具体的な事例を挙げて説明することができる。相手の気持ちや考えを尊重することができる。	・自分の将来について考えることができる。理由(理由)を説明することができる。具体的な事例を挙げて説明することができる。相手の気持ちや考えを尊重することができる。	・地域に参画する中で、社会の発展に貢献できる。理由(理由)を説明することができる。具体的な事例を挙げて説明することができる。相手の気持ちや考えを尊重することができる。	・基礎的な知識を習得することができる。理由(理由)を説明することができる。具体的な事例を挙げて説明することができる。相手の気持ちや考えを尊重することができる。	・新しいアイデアや発想を生み出すことができる。理由(理由)を説明することができる。具体的な事例を挙げて説明することができる。相手の気持ちや考えを尊重することができる。	・自分の得意分野について、課題を発見することができる。理由(理由)を説明することができる。具体的な事例を挙げて説明することができる。相手の気持ちや考えを尊重することができる。
5	・自分の気持ちや考えを相手に伝えることができる。理由(理由)を説明することができる。具体的な事例を挙げて説明することができる。相手の気持ちや考えを尊重することができる。自分の成長を促すことができる。	・相手の気持ちや考えを理解することができる。理由(理由)を説明することができる。具体的な事例を挙げて説明することができる。相手の気持ちや考えを尊重することができる。自分の成長を促すことができる。	・様々な状況の中で、自分の気持ちや考えを相手に伝えることができる。理由(理由)を説明することができる。具体的な事例を挙げて説明することができる。相手の気持ちや考えを尊重することができる。自分の成長を促すことができる。	・地域の文化や歴史について理解することができる。理由(理由)を説明することができる。具体的な事例を挙げて説明することができる。相手の気持ちや考えを尊重することができる。自分の成長を促すことができる。	・自分の将来について考えることができる。理由(理由)を説明することができる。具体的な事例を挙げて説明することができる。相手の気持ちや考えを尊重することができる。自分の成長を促すことができる。	・地域に参画する中で、社会の発展に貢献できる。理由(理由)を説明することができる。具体的な事例を挙げて説明することができる。相手の気持ちや考えを尊重することができる。自分の成長を促すことができる。	・基礎的な知識を習得することができる。理由(理由)を説明することができる。具体的な事例を挙げて説明することができる。相手の気持ちや考えを尊重することができる。自分の成長を促すことができる。	・新しいアイデアや発想を生み出すことができる。理由(理由)を説明することができる。具体的な事例を挙げて説明することができる。相手の気持ちや考えを尊重することができる。自分の成長を促すことができる。	・自分の得意分野について、課題を発見することができる。理由(理由)を説明することができる。具体的な事例を挙げて説明することができる。相手の気持ちや考えを尊重することができる。自分の成長を促すことができる。

<具体的なGROW UP目標>

	目標レベル	具体的な目標やチャレンジすることなど。
Co	③	
Co		
Lo		

<今回のGROW UP振り返り>

	達成レベル	わかったこと、反省、感想、課題や提案など。
Co	③	達成度< 良くできた ・ できた ・ あまりできなかった ・ できなかった>
Co		達成度< 良くできた ・ できた ・ あまりできなかった ・ できなかった>
Lo		達成度< 良くできた ・ できた ・ あまりできなかった ・ できなかった>
		達成度< 良くできた ・ できた ・ あまりできなかった ・ できなかった>

## 学校運営協議会および研究推進協議会についての意識調査用紙

【記入に当たって】

氏名( )

今現在の意識で、それぞれの項目について、該当するものをA～Eの中から選び、○をつけてください。

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない E:わからない

No.	項 目	A	B	C	D	E
1	本校の3つの学校教育目標(共育・共創・人財)を知っている。					
2	本校の目標や課題を共有するため、学校運営協議会(研究推進協議会)が設置されているのを知っている。					
3	地域や企業の意見が、教育活動や地域連携に活かされていると感じている。					
(1)	3. で <b>AまたはB</b> を選ばれた方にお伺いします。 どんなどころに活かされていると感じますか。具体的にご記入ください。 ( )	/				
4	本校のCoCoLo教育で育成している9つの資質や能力について知っている。					
(1)	次のうちどれですか。 知っていたものに○をつけてください。 <b>複数可</b> 。 自己理解力 ・ 他者理解力 ・ 人間関係形成力 ・ 地域文化理解力 キャリア実践力 ・ 社会参画力 ・ 知識力 ・ 創造力 ・ 課題発見解決力	/				
5	本校が地域(幼小中・企業・行政)と連携して実施している教育活動を知っている。					
(1)	5. で <b>AからC</b> を選ばれた方にお伺いします。 オープンスクールでは、生徒が主体的に活動しており、中学生の進路選択につながっている。 キッズビジネススタウンたまでは、生徒が主体的に活動しており、小中学生と交流ができています。 雄心祭(文化の部・体育の部)では、生徒が主体的に活動しており、資質や能力の向上につながっている。 地域で行っているボランティア活動が、地域の活性化につながっている。 インターンシップ(就業体験)を2年生全員で行うことが、進路意識の醸成につながっている。	/				
6	本校は、社会のルールやマナーが身につくように教育活動が行われている。					
7	生徒は、主体的に学習に取り組んでいる。					
8	教員は、生徒が主体的に取り組むよう授業の工夫を行っている。					
9	本校は、効果的に情報発信を行っている。					
(1)	9. で、 <b>AまたはB</b> を選ばれた方にお伺いします。 該当する方法に○をつけてください。 <b>複数可</b> 。その他、より効果的と思われる方法があれば具体的にご記入ください。 スクールガイド ・ ポスター ・ ホームページ ・ フェイスブック ・ 新聞記事 その他( )	/				

※ 裏面に続く

※ その他、本校がさらによくなるアイデアがあれば、できるだけ具体的にお書きください。



## 学校運営協議会設置、開催までの経緯

### 【平成30年度】

- 5月 [学 校] 玉野市教育委員会事務局に「玉野市学校運営協議会に関する規則」の改定を依頼  
[学 校] 全教員参画による「求める資質・能力」作成開始
- 9月 [学 校] 「未来プロジェクトチーム」(学校の新たな将来像を描き、取組を先導する組織) 新設
- 12月 [学 校] 「求める資質・能力」完成、職員会議で説明→全教員によるループリック作成開始  
[市教委] 「玉野市学校運営協議会に関する規則」改定(平成31年4月1日施行)  
[学 校] 職員会議: 学校運営協議会設置及び文部科学省調査研究事業への申請について説明  
[学 校] 学校運営協議会委員(案)について玉野市教育委員会事務局と協議
- 1月 [学 校] 学校運営協議会委員に対する内諾開始(校長、主幹教諭)  
[学 校] 職員会議: 学校運営協議会委員(案)について説明
- 2月 [学 校] ループリック完成、職員会議で説明→ランドデザイン作成開始  
[学 校] 学校評議委員会: 学校運営協議会設置及び「求める資質・能力」について説明  
[学 校] PTA役員会: 学校運営協議会設置及び「求める資質・能力」について説明
- 3月 [学 校] 職員会議: ランドデザインについて説明  
[学 校] 文部科学省調査研究事業に係る研究推進協議会委員について玉野市教育委員会事務局と協議  
→研究推進協議会委員に対する内諾開始(校長、主幹教諭)  
[学 校] 玉野市教育委員会事務局に文部科学省調査研究事業に係る事業計画提出

### 【平成31年度(令和元年度)】

- 4月 [学 校] 職員会議: 「求める資質・能力」、ループリック、ランドデザイン、学校運営協議会設置及び文部科学省調査研究事業について説明  
[学 校] PTA役員会: 同上  
[学 校] 玉野市教育委員会に学校運営協議会委員に係る意見具申
- 5月 [市教委] 学校運営協議会委員に委嘱状交付  
[学 校] PTA総会: 「求める資質・能力」、ループリック、ランドデザイン、学校運営協議会設置及び文部科学省調査研究事業について説明
- 6月 [学 校] 同窓会総会: 「求める資質・能力」及び学校運営協議会設置について説明
- 7月 [学 校] 第1回学校運営協議会及び研究推進協議会開催

玉野商工高

「コミュニティ・スクール」始動

# 地域連携のモデル構築

## 運営協、推進協が初会合

本年度、地域と共に生徒を育てる「コミュニティ・スクール」としてのスタートを切った玉野商工高で2日、運営を担う学校運営協議会の初会合が開かれた。初年度は文部科学省の研究指定を受け、研究推進協議会も併せて設置。地域と連携した持続可能な教育モデルの構築を狙う。

内の商工関係者、小中学校の代表ら研究推進協議会のメンバー24人(うち13人は学校運営協議会兼任)が出席。田村繁樹校長が「地域に貢献する学校としての使命を果たすことが求められる。新たな魅力づくりを皆さまと進めたい」とあいさつした。

方針となる本年度の学校経営計画書を承認した。ミッションとして「地域と共にC.O.C.O.L.O.(こころ)を育て、地域に貢献する人材を育成する」を掲げ、コミュニケーション力、地域や世界と協働する力、論理的思考力の育成を柱としている。

運営協に続いて開かれた研究推進協では、高瀬淳・岡山大学院教授(教育行政学)を



座長に、企業との連携について話し合った。▽小中連携▽ボランティア活動の3テーマの教育活動に講師など

として関わりながら、11月と来年2月に全体会議を開催。3月に研究発表会を開く予定。学校運営協は、校長が作成する学校運営の基本方針を承認するほか、学校運営や教職員の任用に関して意見を述べるができる。2017年4月の法改正で設置が教委の努力義務となった。県内の公立高校で設置するのは岡山市立後楽館高に続き2校目。(松山定道)

玉野商工高の魅力づくりに  
ついて熱心にグループ討議  
した研究推進協議会



学校運営協議会委員及び研究推進協議会委員



第1回研究推進協議会



第1回学校運営協議会



WG1（企業連携）委員



第1回WG1（企業連携）委員会



WG3（ボランティア活動連携）委員



第1回WG3（ボランティア活動連携）委員会



WG2（小中学校との連携）委員



第1回WG2（小中学校との連携）委員会



第2回学校運営協議会



第2回研究推進協議会



第2回研究推進協議会  
WG3（ボランティア活動連携）



第2回研究推進協議会  
WG1（企業連携）



第2回研究協議会  
WG2（小中学校との連携）



第3回研究推進協議会



第3回学校運営協議会

## 学校運営協議会委員（研究推進協議会委員を兼任）

玉野公共職業安定所所長	赤木 功
玉野商工会議所総務課長	近藤 克也
玉野商工会議所青年部会長	大月 博
玉野市商工観光課課長	大倉 明
玉野市小学校長会代表	西川 竜馬
玉野市中学校長会代表	岡本久美子
玉野市青少年育成センター所長代理	妹尾 均
スクールカウンセラー	進賀 友一
地域住民代表	大野 敏明
玉野商工高等学校PTA会長	小山恵里香
玉野市教育委員会学校教育課課長（兼玉野商工高等学校事務長）	住田 義広
玉野商工高等学校校長	田村 繁樹
玉野商工高等学校教頭	福岡 明広

## 研究推進協議会委員

株式会社三井E&Sビジネスサービス人事総務サービス部玉野分室長	稲田 秀知
株式会社宮原製作所取締役経営企画部長	森川 友和
三国工業株式会社経営管理部課長	細谷 静男
瀬戸内温泉たまの湯支配人	石川 勝幸
両備バスカンパニー玉野営業所所長	守安 栄之
前NPO法人UNOICHI実行委員会理事	畑 明子
デザイン事務所アダプト（地域住民）	金谷 浩之
フリーアナウンサー（地域住民）	妹尾 恵美
岡山大学大学院教授	高瀬 淳
玉野市教育委員会教育長	石川 雅史
玉野市教育委員会学校教育課主幹（指導主事）	栗本 明德

## 事務局

玉野商工高等学校事務長代理	清山 智保
玉野商工高等学校主幹教諭	大場 匡徳
玉野商工高等学校教務課長	佐藤 伸治
玉野商工高等学校総務課長	鳥越 修
玉野商工高等学校生徒指導課長	槌谷 信行
玉野商工高等学校進路指導課長	長尾 清次
玉野商工高等学校教育相談室長	鈴木 俊雄
玉野商工高等学校工業科主任	戸田 義久
玉野商工高等学校商業科主任	小野 智子
玉野商工高等学校数学科主任（共通教科代表）	安達 暁俊

## 参画生徒

WG 1（企業連携）	田邊 陽向	垣内 愛菜	斉藤玲未依	谷口慎太郎
	難波 卓也	畑上 佳輝	松森 京護	
WG 2（小中連携）	青陰 祐真	守安 芽生	吉形 優奈	藤本 悠誠
WG 3（ボランティア活動連携）	山崎 郁哉	長谷井 愛		

玉野市立玉野商工高等学校

〒706-0012 岡山県玉野市玉 6-1-1

TEL 0863-31-5341 FAX 0863-31-5342

[webmaster@tamanosho.ed.jp](mailto:webmaster@tamanosho.ed.jp)